

太陽光発電パネル設置による

畜舎の暑熱対策技術の確立試験を開始しました

地球温暖化や気候変動の影響で、特に夏季に家畜のへい死が起こるなど、畜産現場においても暑熱の被害が増大しています。畜産農家では暑熱対策として屋根裏への断熱資材の設置や換気扇設置による送風などを実施していますが、資材費や電力の負担の増加は経営を圧迫しています。

そこで当センターでは、太陽光発電パネルによる断熱に着目し、畜産農家にとって経済的メリットがあり、家畜の生産性を維持できる持続可能な新たな暑熱対策技術の開発を目指した試験を開始しました。

現在、太陽光発電パネルを鶏舎の屋根全面に設置した試験区と太陽光発電パネルを設置していない対照区それぞれに温度センサーを10個ずつ設置し温度データの比較を行っています。

今後は産卵個数や卵重、卵質検査など生産性に関するデータも収集し温度データと照らし合わせ、太陽光発電パネル設置の効果について調査していきます。



太陽光発電パネルを設置した鶏舎(写真中央)



鶏舎内に設置した温度センサー
(矢印)